〔研究ノート〕

中国における道徳教育と社会科との合科

The integrated study of Moral education and Social studies in China

山田　美香
Mika Yamada

要旨：本研究は、中国における先行研究を用いて、現在中国の道徳教育と社会科が合科であることに注目し、道徳教育と社会科の歴史、背景を整理するものである。中国では、愛国主義教育との関係で道徳的価値、道徳的実践力の習得、社会化が問われている。中国では小学で品徳と生活、品徳と社会、中学で思想品徳の授業で道徳教育が行われるが、本研究では、中国の歴史的な道徳教育の定義と社会科との合科の歴史的プロセスについてみていく。

キーワード：中国、道徳教育、社会科、合科

はじめに

本研究は先行研究を整理しつつ、中国の小学の道徳教育が社会科との合科教育である理由を考察するものである。現在、中国では、日本でいう道徳教育は、生活科、社会科との合科である「品徳と生活」（小学１－２年）、「品徳と社会」（小学３－６年）で行われる。「品徳と生活」、「品徳と社会」は、生徒の道徳的価値の内面化と「社会主義」教育が一体化する総合課程で、道徳的価値、実践力を身につける道徳教育と社会化を図る社会科教育のどちらも重視されている。

2001年、「基礎教育課程改革綱要（試行）」で、「道徳教育は各学科教育段階で浸透させる。教育方法を改め、実践段階を重んじ、思想品徳教育の即応性、実効性を高める」[1]と記され、また、ここ10年の義務教育課程改革の一環として総合的な教育が目指され、道徳教育と社会科に限らず、各教科の合科が進められた。「九年一貫課程の義務教育を設置し、小学段階は総合課程を主とする」[2]と、小学課程はこれまでの分科された教科教育から合科が重視されている。

先行研究では、郭雯霞が、道徳教育と社会科の合科である理由を次のように述べている。

1990年代後、我が国の経済体制の改革に従い、社会文化の価値は多様化し、これによって、

1　教育部基礎教育司組織編写『走進新課程』北京師範大学出版社、2002年、p.5。
2　教育部基礎教育司組織編写『走進新課程』北京師範大学出版社、2002年、pp.18-19。

我々はいかに児童のために正確な価値選択を提供し、いかに児童が社会を認識し、社会に適応し、社会に参与するのかを考える必要があった[3]。

つまり、急激な社会変化による生活の多様化に対して、児童の社会化と同時に「正確な価値観」を教える道徳教育の必要があったのである。

“品徳”と“社会”が相結合することは社会の発展に必要で、同時に二者の整合の中にある内在的合理性と必然性が「品徳と社会」の存在の基となっている[4]。

しかし、郭は、現代中国では、道徳教育と社会科の合科で、社会科で倫理教育が強調されることが、児童の社会認識の問題発見能力の養成に障害となっていると指摘している。

中国の社会科の核心は、『品徳』と『社会』の二者の相互関係にあり、つとめてはっきりとしているのは、社会科の倫理性にあり、児童の発見、社会的な課題の分析・判断・解決への参与の社会認識や行為の養成にはないことである。その結果、多少『社会』の視角の欠けた社会文化環境の中で、我々の社会科の共同体理論は必然的に宏大な道徳教育の叙述のなかに隠されてしまう。社会科の理論研究は滞り、科学的に人文社会科学、社会認識論、児童の社会認知理論等で理論の基礎を自身で定めることができていない。新課程の品徳と社会科は、まだ厚い蓄積がない[5]。

この他の先行研究としては、沈暁敏が伝統的な道徳、公民意識、公共意識と「中国の道徳・社会科の再編成」を書いている[6]。また、中国では最近、公民教育の育成に力を入れているため王文嵐は社会科課程と公民教育[7]、姜英敏はシティズンシップ教育[8]について、陳桂生は中国独自の道徳教育と政治教育[9]に関して書いている。

本稿では、以上の関連先行研究を整理し、中国の学校教育における道徳教育と社会科が合科であることの意味を考える。

3　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　―个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.263。
4　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　―个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.263。
5　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　―个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.2。
6　沈暁敏「中国の道徳・社会科の再編成における「公民意識」「公共意識」の形成―「品徳と社会」教科書（上海）を中心に―」東京大学大学院教育学研究科紀要45、2006年。
7　王文嵐『社会科課程中的公民教育研究』中国社会科学出版社、2006年。
8　姜英敏「中国におけるシティズンシップ教育―東アジア的シティズンシップ育成の可能性について」日本社会科教育学会国際交流委員会編『東アジアにおけるシティズンシップ教育』明治図書、2008年、pp.30-50。
9　陳桂生『中国徳育問題』福建教育出版社、2007年、pp.75-85。

１．中国の道徳教育、思想教育、政治教育

班華は、道徳教育は「１教育学の中から分化したもの、２倫理原理、教育原理が統合したもの、３多様な学科、例えば、教育学、品徳心理学、教育心理学、教育哲学、倫理学、社会学等の学問の分化と総合の産物」[10]と分類し、道徳教育は「現象からみると、教育学が細分化された結果の学問」[11]と教育学の系譜による学問とみている。しかし、現在の中国では、道徳教育は政治イデオロギーとの関係が密接である。

それでは、中国における道徳教育はどのように定義されるのであろうか。

麦志強によると、「1980年代、徳育の内容が豊富になり、次第に道徳教育の簡略化された名称として徳育というのは狭義だということになった。徳育の拡大の必要に迫られ、道徳教育、政治思想教育、人生観・世界観の教育、法教育等をみな徳育の概念に入れ、広義の徳育の概念が出現した」[12]という。

つまり、徳育とは、「道徳教育の簡称」、「思想品徳教育、品徳教育」、「思想政治教育、政治思想教育」、「理想教育、道徳教育、規律教育」、「思想教育と政治教育と道徳教育の総称」、「“四項”の基本原則の教育と道徳養育の総称」、「愛国主義教育、集団主義教育、労働教育、社会主義理想教育、共産主義理想教育」、「人となる教育」、「知力の要素ではない教育」[13]と多様な教育が含まれている。このような道徳教育の広がりについては、王麗榮は、狭義の意味での道徳教育という「小道徳」のほか、「大道徳」があると述べている。実際中国では、道徳教育と政治教育の合科が試みられてきた。広義の道徳教育である「大道徳」は、政治教育、公民教育、思想教育、児童生徒の精神面の陶冶も含む。現在、道徳教育で唱えられる徳目は、日常生活で守るべきこと、社会主義的な文言、現在では人格陶冶の要素も含まれている。

朱暁宏も同様に、「我が国の道徳教育の現状から見ると、道徳教育の外延はとても広く、世界観と人生観の教育、政治教育、品徳教育を包括する」[14]と述べている。朱は、「意識形態、政策上も、“道徳”を“政治”、“法律”、“世界観人生観”で代替することはできないし、“政治”、“法律”“世界観人生観”を“道徳”の付加成分を見なすこともできない」[15]と書き、「道徳と政治意識の形態の連携は密接で、その支配と制約を受け、道徳も鮮明な政治性を備えている」[16]と、中国では道徳は政治に左右され、政治は道徳に左右されていると述べている。

事実、「中小学德育工作規程」（1998年３月）では、その第２条に、「徳育はすなわち、児童生

10　朱小蔓主編『道徳教育論叢』第１巻、2000年、南京師範大学出版社、班華「世紀之交德育現代化建設」p.79。
11　朱小蔓主編『道徳教育論叢』第１巻、2000年、南京師範大学出版社、班華「世紀之交德育現代化建設」p.79。
12　麦志強「1.概論」謝国基等編著『現代中小学德育研究与探索』科学出版社、1999年、p.2。
13　麦志強「1.概論」謝国基等編著『現代中小学德育研究与探索』科学出版社、1999年、p.2。
14　朱暁宏『公民教育』教育科学出版社、2003年、p.14。
15　朱暁宏『公民教育』教育科学出版社、2003年、p.15。
16　朱暁宏『公民教育』教育科学出版社、2003年、p.15。

徒に対して政治、思想、道徳、心理品質教育を進めること、これが小学の素質教育の重要な部分であり、青少年の健康的な成長と学校工作の方向、動力、作用を保障するものである」と、学校教育のなかでの徳育の重要性について述べている。第3条には、「小中学の徳育工作は必ずマルクス主義、毛沢東思想、鄧小平理論の指導を堅持し、正確な政治方向を定めることを第一義とする」と、その政治性を明確に打ち出している。第4条では、「小中学の徳育工作は、本地区の実際の青少年児童の実際から出発し、小中学生の思想品徳の形成の規律と社会発展の要求に従い、小中学のすべての徳育体系を決める」と、小中学生の状況、地域の状況を踏まえて道徳教育を行う柔軟性を説いている。第5条には「小中学の徳育工作の基本任務は、児童生徒が社会主義祖国を熱愛し、社会公徳、文明的な行為を行う習慣を備え、法を守る公民となるよう養成することである」と愛国主義が強調されている。

2004年、修正された「中小学生守則」 の筆頭には、「祖国を熱愛し、人民を熱愛し、中国共産党を熱愛する」愛国主義、共産主義が掲げられている。 また、2007年11月26日教育部弁公庁による通達において、「初中思想品徳課、高中思想政治課貫徹党的十七大精神的指導意見」を制定することで、「2008年秋以降は『十七大精神』により修正しない教材は継続して使ってはいけない」ことになった。

以上のように、中国では道徳教育と政治が不可分の関係にあり、むしろ道徳教育と政治教育の一体化こそが重要だとされている。

2．小学の社会科、道徳教育の歴史

次に、先行研究に基づき、中国の小学の社会科と道徳教育の変遷を見る。既に中国の社会科教育史研究[17]、道徳教育史研究において教育課程に関する記述はあるが、丁堯清、陳侠の近代学校課程の研究[18]から、近代教育の開始から道徳教育、社会科の合科の歴史を論じる。

日本の近代教育の影響を受けた1902年欽定学堂章程では、修身は独立した週6時間の筆頭教科で、別に読経、史学、與地が科目としてあった。1904年奏定学堂章程から、修身は週2時間、読経講経が週12時間、歴史、地理、格致があった。1909年改訂初等小学堂章程は、完全科は修身2時間、4年簡易科・3年簡易科は、読経は修身に含まれた。歴史、地理、格致の3科は、中国文学読本に入れられた。修身と儒学の経典を読む読経は、読経の方が正確に「読むこと」が要求されるが、実質、儒学による精神陶冶であることには変わりはなかった。1911年改訂両等小学堂章

17　木全清博「中国における小学社会科の設置と社会科教科書―中国の社会科教育（Ⅰ）―」『滋賀大学教育学部紀要　教育科学』No.48、1998年、pp.29-55。木全清博「中国における中学社会科カリキュラムと社会科教科書」滋賀大学教育学部紀要　教育科学』No.51、2001年、pp.51-76。佐藤勲「中国社会科の研究（Ⅰ）―1923年新学制小学課程標準における社会科を中心にして―」社会科研究 (30)、1982年、pp.158-167。

18　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年。陳侠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年。

程は、初等小学堂、高等小学堂は修身、読経講経、高等小学堂はそれに加え、歴史、地理、格致が中国文学読本から独立した[19]。

中華民国の1912年、普通教育暫行課程標準では、初等小学堂、高等小学堂の教育課程にも修身、国文があるが、読経講経がなくなった。高等小学堂で中華史地、中国の「歴史地理」という科目が入る。1912年小学校令で、初等小学堂、高等小学堂で修身・国文、本国史地が高等小学堂で実施される。1915年国民学校令、高等小学校令で、国民学校、高等小学校で修身、国文、高等小学校で読経、本国歴史、地理と、高等小学校で読経が復活する[20]。

つまり、清末までは修身、読経が、民国初期は修身が道徳教育を担っていた。

その後、1922年の新学制、1923年「小学課程標準綱要」で、小学課程は、「公民、衛生、歴史、地理」[21]と分けられる。初級小学、高級小学で、修身、読経はなくなる。宮原は、呉研因・翁之達が、「修身はただ時間を浪費して少しも実効がない」ので、修身が廃止され公民科となった[22]と指摘したと紹介している 。1924年「新学制小学課程綱要草案」では、社会（衛生、公民、歴史、地理）というこれまでの既存科目である歴史、地理に公民、衛生を加えた合科である社会科が誕生する[23]。

この背景には、陳俠によると、当時公民養成が目指され、「直接的な道徳教育を児童に施しても公民教育の効果を得ることは難しい」[24]ことから、「修身科を廃止、公民科がとって代わ」[25]ったのである。公民科の教育目標は、「自己と他者が生きる社会の関係を理解し（家庭、学校、組織、国家、国際）、現代生活を営むに適した習慣を養成する」[26]というものであった。儒学に範を求めるのではなく、社会を理解できる公民を養成するものであった[27]。

韓震・梁俠主は、「1922年壬戌学制が発布され、1923年新学制が制定され、新学制小学校課程綱要が公布されたことにより、初級小学校段階で、衛生、公民、歴史、人生地理等、実際の人生の環境の社会事項」[28]について、すなわち、人の生きる環境の中での社会的事項を社会科と称したと書いている。韓震・梁俠主は、続けて、「公民科と修身科は異なり、修身は徳性を涵養することを重んじ、公民は社会環境の状況を検討することを重んじるため、公民科は社会科に組み込ま

19　陳俠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、pp.12-16の小学課程の表より。
20　陳俠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、pp.25-39の小学課程の表より。
21　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.21。
22　宮原兎一「中国における社会科の成立」『東京教育大学教育学部紀要』(3)、1957年、p.28。
23　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.21。
24　陳俠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、p.41。
25　陳俠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、p.41。
26　陳俠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、p.42。
27　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.26。
28　歴史と社会課程標準（一）研究制組　韓震・梁俠主編『歴史と社会課程標準（一）解読　実験稿』北京師範大学出版社、2002年、p.8。郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年。

れた」[29]と述べ、公民教育と修身とは、その教育目的・内容は明らかに一線を画すものであることを指摘している。

清末の日本型修身から、1920年代、アメリカ教育モデルの公民科（社会科）の導入[30]に伴い、子どもの「社会化」は、社会科課程で実施されていくことになる。

丁堯清によると、1923年頒布の新学制課程綱要で、アメリカの社会科課程のモデルを輸入し、その中で、「小学社会科には衛生、公民、歴史、地理4科目が含まれ、初等小学１－４年は各科目が一緒に行われ、高等小学5－6年は、分科するもののその関係性を重視した」[31]と、低中学年では合科が行われていた。

南京政府になると、大学院「小学暫行条例」（1928）では初級小学、高級小学は三民主義、公民、国語、歴史、地理、衛生、党童子軍が教科目となり、筆頭科目に孫文の三民主義が入り、社会科が解体され、公民、歴史、地理、衛生が分科される。「小中学課程暫行標準」（1929）では党義、国語、社会、「小学課程標準」（1932）では、公民訓練、衛生、国語、社会、労作は分科から合科の社会科となる[32]。

この時期には、修身、読経による道徳教育ではなく、三民主義、党義など明らかに政治的イデオロギーを踏まえ道徳教育が思想政治教育と一緒に行われていた。

「小学課程標準」（1936）には、公民訓練、国語、１－４年常識（社会・自然）、５－６年公民、歴史、地理、工作（労作、技術）、1942年「小学課程標準」は、団体訓練、国語、１－４年常識（公民、歴史、地理）、５－６年社会、労作[33]と、小学1－4年で、社会科と理科の合科である常識科が開設される。

このような社会科と公民科の流れについては、前述の郭雯霞が、「中国の社会科の発展史上、民国時期の社会科と公民科は新課程の品徳と社会となり、中国の社会科は始終、国家一個人の関係のロジックの中で我が国の公民に良好な品徳を養成する使命を肩に負っている」[34]と述べている。

以上のことをまとめると、修身は、1922年に公民科に取って代わられ、さらに1928年に三民主義、1929年党義、1932年公民訓練、1942年団体訓練と、徳目による人格陶冶から、公民教育、三民主義、さらに団体訓練が重視されていく。劉国強・謝均才は、公民教育は「1949年前は修身、公民、党義の軸線上にあり、あとにまた公民教育に回帰する」[35]と、その歴史的変遷を述べている。

29　歴史と社会課程標準（一）研究制組　韓震・梁侠主編『歴史と社会課程標準（一）解読　実験稿』北京師範大学出版社、2002年、p.8。
30　佐藤勲「中国社会科の研究（Ⅰ）―1923年新学制小学課程標準における社会科を中心にして―」社会科研究 (30)、1982年、pp.158-167。
31　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.196。
32　陳侠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、pp.54-58の小学課程の表より。
33　陳侠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年。
丁堯清『学校社会家庭的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.204。
34　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、中文摘要 p.2。
35　李琪明「台湾与中国大陸義務教育階段徳育課程之比較研究」劉国強・謝均才編著『変革中的両岸徳育与公民教育』中文大学出版社、2004年、p.126。

一方、丁堯清によると、1920年代から、共産党の根拠地であったソビエト区学校で、井岡山初等小学には社会工作、高等小学には社会史、地理、政治[36]の科目があった。「共産党、ソビエト政府を擁護し、帝国主義、国民党、封建地主の労働者に対する削除・圧迫への闘争を掲げ、児童の階級意識を啓発し、階級の覚悟を高める」[37]という教育目的であった。

つまり、近代学校設立後、清末、北洋軍閥政府下では修身の影響があったが、その後、南京政府下、共産党の根拠地ではその影響はほとんどなく、共産党根拠地では党教育を行っていた。

1949年中華人民共和国成立後も、社会主義路線の下で独自の党教育、思想教育をしてきた。

中華人民共和国成立後、1952年「小中学暫行規程」で、小学５、６年が歴史地理、1963年「全日制小中学新教育を実行する計画に関する通知」で、小学１、２年が常識、小学５、６年が歴史、６年が地理[38]を学んだ。文化大革命時期、1966－1976年、社会科は取り消された[39]。

1988年「全日制小学社会教学大綱」において、「社会科は九年制義務教育段階の小学生に対する社会常識教育の必要な課程」[40]と明記され、1992年５月、「元国家教育委員会の『９年義務教育課程計画』が制定され、５年制小学校の３－５年、６年制の４－６年で社会科が開設されることが規定され」[41]た。1996年秋、全面的に社会科が開設され[42]、民国時代にあった社会科が復活した。しかし、2001年、６年制小学で４－６年生の社会科がなくなり、「品徳と生活」「品徳と社会」となった。これは1978年からの政治科、1981年から2000年までの思想品徳科と社会科との合科である。1949年後の中国では、道徳教育がなく、民国時代の公民教育の系譜と重なる思想政治教育が行われていた。この思想政治教育と社会科との合科が、現在行われている「品徳と生活」「品徳と社会」である。

３．小学の思想品徳科、社会科、公民教育

次に、1978年からの思想政治教育について述べる。陳桂生は、「中国の政治教育はいわゆる道徳教育のなかに包摂されている」と述べ、「政治化した道徳教育と道徳教育化した政治教育が交錯している」[43]として、その境界がはっきりしていない点を示している。

一方、袁運開は、「特に思想政治教育の意義を主張するとき、思想政治教育は道徳教育の一つの特殊部分とみなされ、ゆえに我々は思想政治教育の一般のプロセスを研究するとき、思想政治教育と道徳教育のプロセスを厳格に区別しない」[44]と述べている。

36　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.207。
37　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.207。
38　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.209。
39　丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.212。
40　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.31。
41　歴史と社会課程標準（一）研究制組　韓震・梁侠主編『歴史と社会課程標準（一）解読　実験稿』北京師範大学出版社、2002年、p.8。
42　郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―　一个社会認識教育論的視角』民族出版社、2005年、p.31。
43　陳桂生『中国徳育問題』福建教育出版社、p.76。
44　袁運開『思想政治教育学』1991年、p.2。

道徳教育、思想教育、政治教育の区別を理念的に論じた王玄武は、道徳教育は「道徳の素質」[45]を養成する教育、思想教育は「根本」[46]で、政治教育は「政治の素質」[47]を養成する教育だと定義している。

王麗榮は、中国では、君子型・エリート型教育で道徳の完善性が重視され、「社会成員が道徳修養を目標とし、教育を受けた者は社会、国家のために服務することが最終目標となる」[48]と述べ、政治と道徳教育を切り離さない君子型・エリート型教育が中国では一般的であったことを論じている。

（表１）小学の修身、読経、社会、思想政治教育

法　令	修　身	読　経	社　会
1902年欽定学堂章程	修身	読経	史学、輿地
1904年奏定学堂章程	修身	読経講経	歴史、地理、格致
1909年初等小学堂章程	修身	完全科３－５年読経	人文学の読本で教える
1911年両等小学堂章程　初等小学堂	修身	読経講経	—
1911年両等小学堂章程　高等小学堂	修身	読経講経	歴史、地理、格致
1912年普通教育暫行課程標準	修身	—	
初等小学堂	修身	—	
高等小学堂	修身	—	中華史地
1915年国民学校令	修身	—	
1915年高等小学校令	修身	読経	本国歴史、地理
1922年	—	—	社会（衛生、公民、歴史、地理）
1928年大学院　小学暫行条例	三民主義	—	公民、歴史、地理、衛生
1929年小中学課程暫行標準	党義	—	社会
1932年小学課程標準	公民訓練	—	衛生、社会
1936年小学課程標準	公民訓練	—	１－４年常識（社会・自然）、
1942年小学課程標準	団体訓練	—	１－５年常識（公民、歴史、地理）、５－６年社会

出典：丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.196、p.204。陳侠『二十世紀中国教育名著叢編　近代中国小学課程演変史』福建教育出版社、2007年、pp.13－16、pp.25－29 、pp.55－64、p.81より。

45　王玄武『思想教育　政治教育　道徳教育比較研究』武漢大学出版社、2002年、p.9
46　王玄武『思想教育　政治教育　道徳教育比較研究』武漢大学出版社、2002年、p.11。
47　王玄武『思想教育　政治教育　道徳教育比較研究』武漢大学出版社、2002年、p.6。
48　王麗榮『当代中日道徳教育比較研究』広東人民出版社、 p.129。

（表２）

法令	修身	読経	社会	思想政治
1952年小中学暫行課程	—	—	5－6年歴史、地理	—
1963年全日制小中学新教学計画（草案）の実行に関する通知	—	—	1－2年常識、5－6年歴史、6年地理	—
1978年全日制10年制小中学教学計画試行草案	—	—	6年歴史、地理	1－6年政治
1981年全日制5年制小学教学計画	—	—	6年歴史、5－6年地理	1－6年思想品徳
1988年全日制小学教学計画	—	—	4－6年社会	1－6年思想品徳
1993年全日制小学教学大綱	—	—	4－6年社会	1－6年思想品徳
2001年基礎教育課程改革綱要（試行）	—	—	1－2年品徳と生活	3－6年品徳と社会

出典：丁堯清『学校社会課程的演変与分析』広東教育出版社、2005年、p.213。丁は、1981年は思想道徳科と書いている。高謙民『中国小学思想品徳教学史』山東教育出版社、1995年、p.436。高は、1981年は思想道徳ではなく、思想品徳科と記している。

王文嵐は、「新中国成立後、ソ連教育思想の影響を受け、社会科課程は分科課程に取って代わられ、小中学は政治科、思想品徳科を開設した」と、1978年の政治科は社会科の分科として理解している。しかし王も、「これらの課程は政治意識の教育を重視し、政治的立場と思想認識を定めることが重要で、自分のためではなく、もっぱら人のため、私のためでなく公のため、滅私奉公などの高尚な品徳を備える者の養成を強調した。しかしこれらの課程は公民の基本的資質に対する要求には欠け、正しい意味での公民教育課程ではなかった」[49]と述べ、社会科の政治色の強さを述べている。また、1991－2000年の思想品徳科は、現在強調されている、社会主義的公民の養成とは異なる、あくまで「為了人民服務」[50]の正しい思想を持つ人民を養成するものであった。

社会科と公民教育について、張秀雄は、「目前、中国には『公民教育』で特設がないので、その歴史と発展はわずかに『思想政治教育』でその精神を理解できるだけである」と言いながら、一方で、「思想政治教育は、学校工作の全過程を貫くもので、各科教育、活動、行政管理の中で思想教育を多様にする」と述べている[51]。

思想政治教育の流れは次のとおりである。

小学では、1981年、「全日制５年制小学教学計画（修訂草案）」で、思想政治教育と道徳教育が合科した思想品徳科が開設された[52]。1982年、教育部は、正式に、「全日制五年制小学思想品徳課教学大綱」を頒布した[53]。1986年「思想品徳課教学大綱」では、思想品徳科は「小学生に対し、比較的系統的に共産主義思想品徳教育を進める課程」と述べられ、教育目的を次のように示して

49　王文嵐『社会科課程中的公民教育研究』中国社会科学出版社、2006年、p.87。
50　王麗榮『当代中日道徳教育比較研究』広東人民出版社、p.133。
51　張秀雄『各国公民教育』師大書苑有限公司、1996年、p.448。

いる。

「五愛と五講四美」を中心とする社会公徳教育と社会常識教育を通して、小学生に社会主義国家の公民にあるべき良好な思想品徳と行為習慣を養成するものである。理想・道徳・文化・規律ある社会主義建設の人材の初歩の思想の基礎を打ち立てる[54]。

1993年「９年義務教育全日制小学思想品徳課教学大綱（試用）」では、児童の年齢による教育が強化された。

小学生の心に愛国の種をまき、彼らが祖国献身の志を立てるよう教育し、同時にこの種の道徳感情は近いところから遠いところに進み、児童生徒が自分の身の周りの父母、教師、同級生、学年クラス、学校、家郷を愛し、次第に祖国を愛すよう発展させる。児童は心のなかにただ自分がいる状況から、他人、集団、人民、祖国を心のなかに持つように、勤労、勇敢、自立、自強などの我が国の人民の伝統的な美徳を彼らの心に芽生え、成長させ、品徳高尚な人となる初歩の基礎を定めるよう教育をする[55]。

また、1993年の大綱では、思想品徳科と社会科との違いについては、「史実の部分は主に社会科で話し、思想品徳科で児童生徒が近現代史の民族の英雄、革命の先輩の不屈の精神と高貴な品徳を学習するよう導く」、「思想品徳科は社会公徳、人民を愛すること、公共財を大事にすることから教育を進めるが、社会科は公共施設の性能用途と各民族の発展、風俗習慣等の知識を紹介することを重んじる」[56]と、その違いを教育内容、教育方法で示している。「思想品徳科は比較的系統的に直接思想品徳教育を行」い、「児童生徒の道徳認識と道徳的判断力を高め、道徳的感情を養成し、彼らの行為を指導することを重んじる」[57]。

つまり、政治科から思想政治教育と道徳教育の合科である思想品徳科に移行したが、思想品徳科と社会科では、異なる教育効果が期待されていた。

４.「品徳と生活」「品徳と社会」の教育目的

教育部基礎教育司によると、「品徳と生活」（１－２年）は、「品徳教育、労働教育、社会教育、科学教育を含み」、「品徳と社会」（３－６年）は「人と他の人、人と社会、人と自然、愛国主義

52　鄧毓浩「中国大陸の公民教育」張秀雄『各国公民教育』師大書苑有限公司、1996年、p.449。
53　高謙民主編『中国小学思想品徳教学史』山東教育出版社、1995年、p.438。
54　詹万生編『中国徳育全書』黒龍江人民出版社、1996年、p.494。
55　詹万生編『中国徳育全書』黒龍江人民出版社、1996年、p.495。
56　詹万生編『中国徳育全書』黒龍江人民出版社、1996年、p.496。
57　詹万生編『中国徳育全書』黒龍江人民出版社、1996年、p.998。

と集団主義教育、品徳教育、行為規範と法教育、歴史と地理教育、国情教育、環境教育などが融合して一体となったもの」[58]とされる。ここから、「品徳と生活」「品徳と社会」は「大道徳」としての教科目であることが分かる。

馬丁一は、「品徳と生活」「品徳と社会」の『課程標準』から、現行の教育目的を次のように書いている。

> 「品徳と生活課程標準」は、低学年の認知水準と生活実践から出発し、３つの線、すなわち「児童と自我」「児童と自然」「児童と社会」、４つの層すなわち「健康、安全な生活」「愉快で積極的な生活」「責任を負い心を愛する生活」「頭を動かし、創意ある生活」を展開するものである。
> 課程の内容では、「児童と自我」は、児童の身体の成長、良好な習慣及び生活能力の養成等、「児童と自然」は、環境意識、生命の意識、自我保護意識、環境保護の自覚の初歩を学び、「児童と社会」は、倫理観念、集団意識、道徳観念、社会規則の意識、協力する意識及び集団活動に参加する能力等を表現している[59]。

> 「品徳と社会課程標準」は、この基礎の上に良好な行為習慣を養成し、基本的な道徳観、価値観、初歩の道徳的判断能力を形成し、彼らの成長のために、現代社会に参与する能力を備えた社会主義に適した公民としての基礎を定めるものである[60]。

小学低学年の「品徳と生活」は、倫理観念、集団意識、社会規則など、その集団で学ぶべきものが整理、細分化され、児童の身体・習慣・生活能力と関わるものが教えられることが分かる。同様に小学中高学年の「品徳と社会」では、「社会生活の範囲で」「良好な品徳形成と社会性の発展を促す総合課程」であると定義づけられている。道徳教育と社会科が有機的に融合し、社会生活で必要な道徳的価値、道徳的判断能力を養成するものとなっている[61]。

これについて、沈暁敏は、「教科の性格と内容の構造について、課程基準の作成者の間で、社会認識を中心にするか道徳品性の形成を中心にするかを巡って激しい論争が展開された」[62]と書いているが、筆者は課程標準作成者の論争について調査はできなかった。

58　教育部基礎教育司組織編写『走進新課程』北京師範大学出版社、2002年、p.26。
59　馬丁一主編『小学校品徳与生活　品徳与社会』北京師範大学出版社、2010年、p.15。
60　馬丁一主編『小学校品徳与生活　品徳与社会』北京師範大学出版社、2010年、p.111。
61　沈暁敏「中国の道徳・社会科の再編成における「公民意識」「公共意識」の形成―「品徳と社会」教科書（上海）を中心に―」東京大学大学院教育学研究科紀要45、2006年、p.260。
62　沈暁敏「中国の道徳・社会科の再編成における「公民意識」「公共意識」の形成―「品徳と社会」教科書（上海）を中心に―」東京大学大学院教育学研究科紀要45、2006年、p.261。

おわりに

本研究は、中国の道徳教育と社会科との合科を論じる第一歩として試みた。中国では、教育課程のなかで、個人の社会化のプロセスが道徳教育と社会科の合科という形で整理されていることが明らかである。小学の「品徳と生活」「品徳と社会」の合科の目標は、児童・生徒の生活から出発し、道徳的価値を身につけるというもので、社会生活の中で必要な実践力を身につける社会科、道徳的実践力を身につける道徳教育が融合されている。

中国で合科が可能なのは、郭雯霞が「日本では、社会科で社会認識を深めることが他者への共感や自己反省などの態度を育み、道徳意識の向上に好影響を及ぼすという相互作用的位置づけなのに対し、中国では道徳教育を社会科に内在化するものとされている」と指摘しているとおりである。

1949年の中華人民共和国成立前から一貫して共産党の根拠地では思想政治教育が教育の根っこにあり、共産党のイデオロギーのもと、思想政治教育が行われた背景があったからこそ、中国では、社会科、社会科の一部の思想政治教育、道徳教育の合科が行われたのである。

本研究ノートは、日本道徳教育学会第78回（平成23年度秋季）大会（平成23年11月20日（日）、於：武蔵野大学）における発表原稿に加筆修正をしたものである。

参考文献

・李雪紅『小学品徳教学拓新』広東教育出版社、2005年
・杜時忠、揚炎軒、盧旭著『社会変遷与徳育実効―転型期中小学徳育実効報告』教育科学出版社、2009年
・王凌皓『中日近代道徳教育理念比較研究』東北師範大学出版社、2005年
・趙亜夫・高峡『《品徳与社会》教学基本概念解読』教育科学出版社、2007年
・馮益謙『比較与創新：中西徳育比較研究』中央編訳出版社、2004年
・姜英敏『日韓道徳課理念比較研究』北京師範大学出版社、2003年
・范樹成・周淪萍・于玲君『思想品徳新旧課程比較』人民出版社、2010年
・木全清博「中国における小学社会科の設置と社会科教科書―中国の社会科教育（Ⅰ）―」『滋賀大学教育学部紀要　教育科学』No.48、1998年、pp.29－55。
・前村佳幸「書評　現代中国の社会変容と『社会科』構築の模索：郭雯霞『中日両国小学社会課的比較研究―一個社会認識教育論的視角』を読む」『社会科論集』、2008年、pp.79－93。
・佐藤勲「中国社会科の研究（Ⅰ）―1923年新学制小学課程標準における社会科を中心にして―」社会科研究 (30)、1982年、pp.158－167。
・尹燕「中国社会科成立前の小学校歴史教育の構造―1986年版教学大綱と1991年版教科書を事例として」『教育学研究紀要』49(2)、2003年、pp.543－548。